

(一社) 日本家政学会第68回大会 P-124  
展示：2016年5月28日(土) 11:00~29日(日) 14:30  
討論：2016年5月29日(日) 14:00~14:30  
W3棟 1階P会場, 金城学院大学, 名古屋

---

# 家族生活教育における プログラム設計

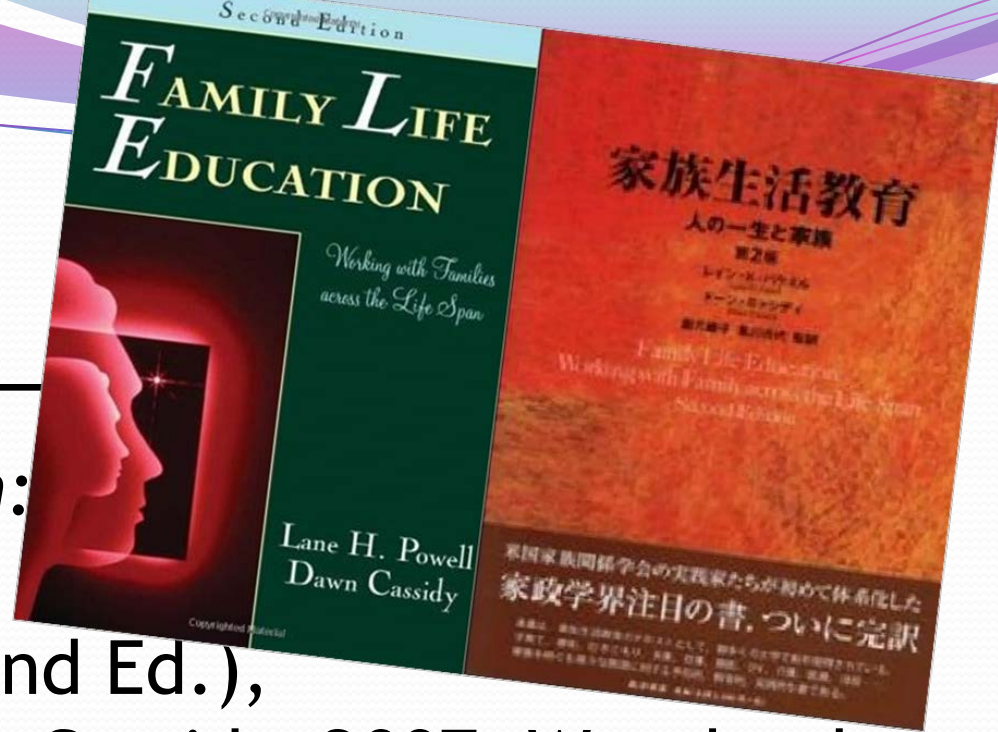
– *Family Life Education: Working with Family across the Life Span (2nd Ed.)* を分析する –

---

○山下いづみ<sup>1</sup>, 黒川衣代<sup>2</sup>, 正保正恵<sup>3</sup>, 倉元綾子<sup>4</sup>  
(<sup>1</sup>FLEふじ/富士市議, <sup>2</sup>鳴門教育大, <sup>3</sup>福山市大, <sup>4</sup>鹿県短大)

# 目的・方法

- *Family Life Education: Working with Family across the Life Span* (2nd Ed.), Lane H. Powell & Dawn Cassidy, 2007, Waveland Press, USA (邦訳『家族生活教育：人の一生と家族』倉元綾子・黒川衣代監訳, 2013, 南方新社)
- 第6章 In a Nutshell: Designing Your Program (プログラム設計)を分析
- 基本的プログラム設計について明らかにする。
- 文献分析



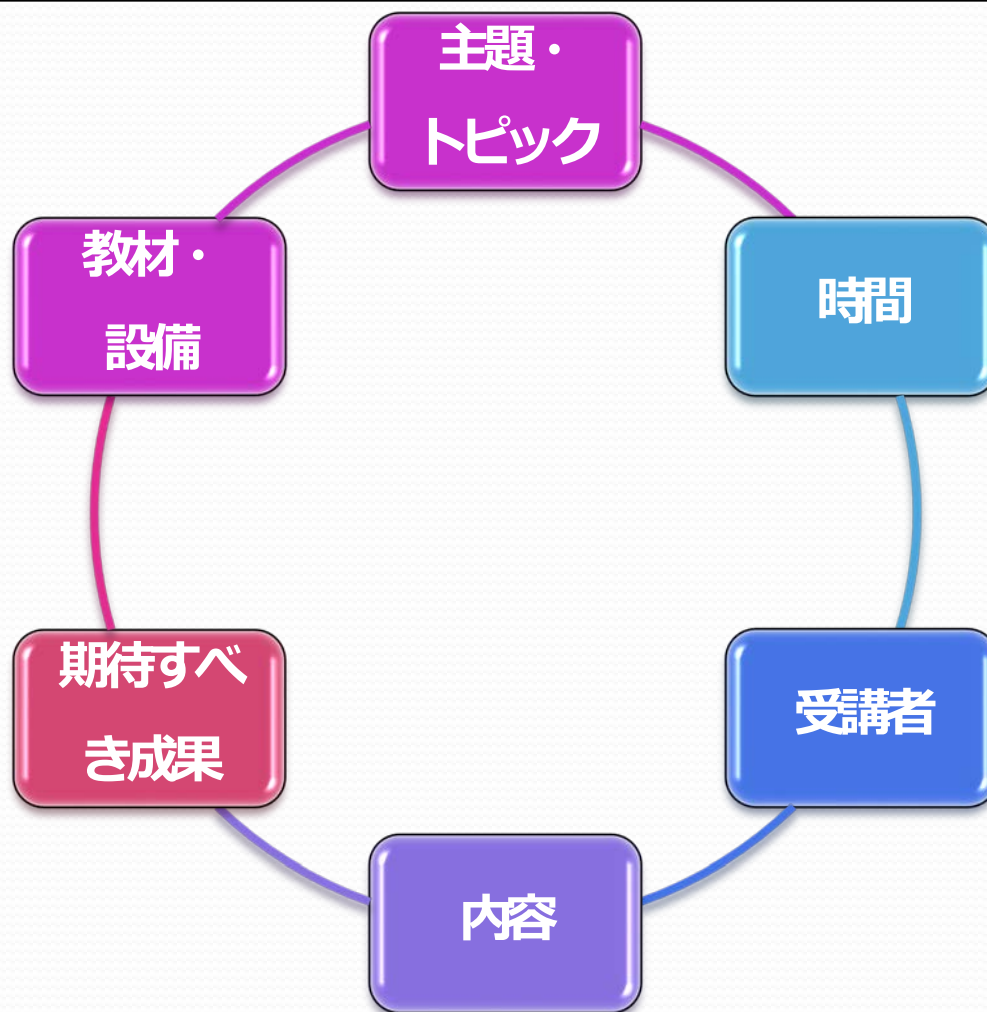
# 結果-1：内容構成

---

- 基礎を覚えておくこと
- 主題・トピックは何か
- どのくらいの時間が配分されているか
- 受講者はだれか
- どんな内容を盛り込むか
- 学習者にどのような成果を望むか
- どんな教材と設備が必要か
- 最もよく理解してもらうためにどのように示すか
- どのようにしてフィードバック・アセスメント・評価を得るか
- フォロー・アップとフォロー・スルー（追跡と継続）
- 要約
- 討論と復習のための問題

# 結果-2:基本的プログラム設計の構成

---



# プログラム設計チェックリスト

- 主題／トピックは何か。
- どのくらいの時間が配分されているか。
- 受講者はだれか。
- どんな内容を盛り込みたいか。
- 学習者にどのような成果を望むか。
- どんな教材と設備が必要か。
- 最も良く理解してもらうために材料をどのように示すか。
- どのようにしてフィードバック, アセスメント, 評価を得るか。
- どんなフォローアップとフォロースルーをするか。

# 結果-2：主題／トピック

---

- 最も有能な設計者・・・**現実の生活問題**に**いっそう特別に関連づける**
- 最も学習がおこなわれるのは、このような状況においてである (Merrill, 2002)

# 結果-3：受講者のニーズ

---

- 重要な出発点・・・対象グループを相手に働いている人と話しをし、彼らの印象を受けとめること。できれば、参加しそうな人自身と話しをすること
- 固定観念を持たないこと
- 人々の特定のトピックへの関心を究明するチェックリスト
- 類似グループの調査と解釈
- 人気のある文芸作品
- 研究論文
- **常に問うこと・・・何が欠けているか。受講者は同じか。どのように異なるか。憶測を避ける。**

# 結果-4：内容

---

- インターネット, 本, 論文
- 最新の研究に裏付けられた情報
- 学術的資格や経験を持つ人々によって書かれたもの
- 新しい日付の文献 (10年以内)
- 例：CFLEメーリング・リスト, National Parent Education Network, Better Marriages, NCFR, AAFCS, Cooperative Extension Services



# 結果-5：学習の組織化

---

- 最初の集まりを強化するいくつかの基本的ガイドラインがある。
- 1. **早期に、そしてしばしば学習者にかかわること。**
  - 導入部・・・自然な出発点
  - より多くのことを聞く・・・誰が生活・人生に最も大きい影響を与えたか。ティーンエイジャー親であることの最も難しいところは何かなど。
  - 話しをさせる・・・だれも怖いと感じないように、自己開示を少なくする。考え方についての質問や討論の例を載せた配布資料。自己評価テスト。
- 2. **新しい情報の量を少なくし、消化できるようにすること。**
  - 熟考、フィードバック、例、自己評価のために十分に時間をかけること。
  - リラックス、ユーモア、相互作用・・・「この人は付き合いやすい、信じてることができる」というメッセージ

# 結果-6：よいプログラム設計・ 解説的一般性

---

- ダンカン (Duncan) &ゴダード (Goddard)(2005)
- 個々の集まりを関連づけ、それらをプログラムに結びつけるために、一般的な原則や真実を用いること
- メリル (Merrill)(1994) 「解説的一般性」
- ティーンエイジャー親のプログラムでは、そのような一般性は「幼児は愛と、全てのニーズに対する我慢強い対応を必要とする」であるかもしれない。
- 将来の行動に影響を与えるようなやり方でその真実を内面化させる「方法」は難しい。
- **良いプログラム設計の基礎的要素（目標，目的，学習者の成果の開発）**

どれが、ビジョン (V) , プログラム目標 (PG) , 目的 (O) , 学習に関する意見 (LS) であるか。

1. \_\_\_ 学習者は特定の子育て (ペアレンティング) 状況で用いることができる体罰以外の3つの基本技術をロール・プレイするだろう。
2. \_\_\_ 私たちは、危機にある子どもとその家族に、養育と支援を提供する。
3. \_\_\_ 家庭における積極的な児童相談のための選択肢を示しなさい。健康な家族のために栄養や身体の健康の基礎について説明しなさい。
4. \_\_\_ 学習者は食料配給の主食を用いて健康な軽食のための毎週のメニューを開発するだろう。
5. \_\_\_ このプログラムは新米の親であることのストレスに対処する方法に取り組むだろう。
6. \_\_\_ 里親は緊急時に電話することができる3つの情報源を挙げるができるだろう。
7. \_\_\_ 参加者は食料配給券にふさわしい10の食料品を挙げるだろう。
8. \_\_\_ 参加者は自分自身の学習スタイルを評価し、その学習スタイルの1つの利点と1つの不都合な点を挙げるだろう。
9. \_\_\_ 参加者は90%の正確さで、怒りを表す容認できる方法と容認できない方法を特定するだろう。
10. \_\_\_ ティーンが仲間の圧力を処理するアサーティブな行動を発達させるのを助ける。

1.LS ; 2.V ; 3.O ; 4.LS ; 5.PG ; 6.LS ; 7.LS ; 8.LS ; 9.LS ; 10.O

(V : ビジョン, PG : プログラム目標, O : 目的, LS : 学習についての記述)

# 結果-7：学習成果

---

- **全ての学習者が知りたいこと**
  - 経験から何が得られるか
  - 時間と努力をかける価値があるか。
- **ファシリテーター・教師が知りたいこと**
  - 自分が学習者の態度や行動に対して持続的な影響を与えているかどうか。

# 学習成果の主な特徴

---

1. 「観察可能な」 学習者の活動を特定
2. 「測定可能な」 学習者の活動を特定
3. 「学習者の活動」 を特定

ススキー (Suskie)(2004)

# 結果-8：効果的な提示

---

- グループの大きさ
- グループが20人より大きいならば、（双方向対話型より）プレゼンテーション方式で計画すべき
- 非公式の、くつろいだ方法は、より多くのグループ相互作用を奨励する。
- 大きいグループでも、特に、多くのグループ相互作用を必要としない自己評価クイズや他の方法をとおして、彼ら自身の生活の状況に取り組み、その内容を適用することができる。

# 結果-9：時間配分

---

- 最も重要だと考える1つか2つの学習成果を決める
- 与えられた時間のなかで、いくつかの異なった方法でそれらを提示し補強する
- 与えられた時間をよく尊重する
- 時間を超過してはいけない！
- 計画したことを終わらせることができないならば、話せる量を超えていることを認識し、結論に移りなさい、そして座りなさい！

# 結果-10：プログラムの範囲と内容

---

- 個人的体験や図を含むさまざまなプレゼンテーション方法を計画する。
- 短い○×クイズなど，受講者を参加させる活動を含める。
- さまざまな学習スタイルに訴える。
- 視覚的学習者
- 聴覚的学習者
- 運動的学習者
- **「全ての」学習者は，より多く参加したという感覚を持つとき，より多くのことを記憶する。**



# 結果-11：評価

評価結果「この学習から何を学んだか」「何か、まだ質問があるか」を検討する前提

- 学習は、個人的な熟考や情報の適用を含む能動的なプロセス
- 共通しているものを分かち合う他者の経験や考えから学ぶ。
- リラックスし、急がないで、楽しんでいるとき、最もよく学ぶ。
- 2つ以上の感覚や学習スタイルに関わっているとき、最もよく学ぶ。
- 自分たち自身の経験や専門知識を評価し尊重するリーダーから、最もよく学ぶ。
- 自分たちの質問や新しい思考の方向性を強制されと感じない人物や、学習者の質問やコメントを学習プロセスへの価値ある貢献と見なす人物から、最もよく学ぶ。

# 結果-12：適切な教育方法

---

- 議論・フィードバックをともなう視聴覚法 (AV法)
- グループ討論
- 2人組みの討論
- 紙と鉛筆による評価 (小テスト)
- ロール・プレイ
- モデル提示
- 配布資料
- 相互作用する身体的体験